

TOPICS

第8回日本農学進歩賞の受賞



平成21年11月25日、東京大学農学部弥生講堂において、第8回日本農学進歩賞の授賞式および受賞者による受賞講演会が多数の参加者のもと盛況に行われました。

日本農学進歩賞は、財団法人農学会が日本の農学の進歩に顕著な貢献をした若手研究者を顕彰する制度で、今回当所からは次世代製剤開発チームの宗田吉広主任研究員が「動物サイトカインの利活用

による家畜疾病制御技術に関する研究」で受賞しました。

(研究調整役)

天然資源の開発利用に関する日米会議 (UJNR) 第44回家畜・家きん疾病専門部会日米合同会議の概要

第44回家畜・家きん疾病専門部会日米合同会議が平成21年12月2日、動物衛生研究所で開催されました。米国からは本部会の米国側代表であるDr. Tyler Thacker (National Animal Disease Center; NADC)のほか、Dr. Tracy Nicholson (NADC)、Dr. Mary Pantin-Jackwood (NADC)、Dr. Dianne Rodman (National Veterinary Services Laboratories; NVSL)の4名が、日本側からは日本側部会長の村上洋介動物衛生研究所長、動物医薬品検査所の牧江弘孝所長、動物検疫所の吉田稔所長(代理：精密検査部危険度分析課長鎌川浩之)のほか、農林水

産先端技術研究所や生物資源研究所などからの参加を含め40名を越える参加がありました。両国代表者からの挨拶に引き続いて、家畜衛生に関連する話題が日本側から16題、米国側から10題の合計26題発表され、双方の家畜衛生状況および研究の進展状況について有意義な情報交換が行われました。

発表内容は多岐にわたり、日本側からは馬由来ヘンドラウイルス、口蹄疫、牛伝達性海綿状脳症(BSE)、豚繁殖・呼吸障害症候群(PRRS)ウイルス、ブルータングウイルス、鳥インフルエンザウイルス、伝染性気管支炎

ウイルスワクチン、*Histophilus somni*、*Scopulariopsis brevicaulis*、*Mycobacterium avium* subsp. *paratuberculosis*、*Streptococcus suis*、*Mycoplasma hyopneumoniae*、リムルス試験、公共牧場管理、豚リゾチームの蚕による産生などに関連する内容が発表されました。米国からは豚呼吸器病ウイルス検出汎用マイクロアレイ、牛伝染性鼻気管炎ウイルス、ペスチウイルス、ブルータングウイルス、鳥インフルエンザウイルス、ニューキャッスル病、*Taylorella equigenitalis*、*Mycobacterium avium* subsp. *paratuberculosis*、*Haemophilus parasuis*、*Babesia equi*などに関連する内容が発表されました。発表終了後に本会議の継続実施、若手研究者の積極的な交流、第45回本会議の米国開催などを記載した決議文に両国代表者が署名しました。

米国側参加者は、雪印乳業資料館および工場(札幌市)ならびに石狩家畜保健衛生所(札幌市)を視察し、4日午後に動物衛生研究所北海道支所で開催された情報交換会に出席しました。そこでは新たに日本側から牛コロナウイルス、牛乳頭腫症、*Salmonella* Typhimurium、周産期疾病関連の話題が提供されました。

(研究管理監(海外病担当)

江口正志)

